

駐大連北九州市経済事務所

◆所長 田代 昇三 ◆副所長 辛川 公浩
◆副所長 呂 俐 ◆主任 劉 振傑
田代 e-mail : yumeiyasu4411@yahoo.co.jp

長興島視察日記

2012/8/6

中国には園区と言われる地域が多々ある。日本でいうところの工業地帯に近いもので、簡単に言うと工場が集まっている地域のことである。ここ大連にも、市内から近い所でいうとソフトウェアパーク（中国語名：高新园区）や、北九州市が協力している庄河市の生態工業モデル園区など、政府主導のものから民間主導のものまで考慮すると大連にも20カ所以上の園区がある。

これらの園区は個別に特色があり、それぞれに誘致活動を行っている。それは中国企業に対してだけでなく、全世界の企業を対象に行っており、当事務所にも「中国事業に興味のある企業を教えてください」という依頼がよくある。

先日、当事務所に先述の園区の一つである大連長興島経済技術開発区の担当の方が来られた。当園区では今後日本企業専用の誘致場所を作る予定がある、とのことで興味のある企業に紹介をお願いしたい、とのことだった。ただ、我々としても実際見てみないことにはわからないので見せてほしい、と依頼すると二つ返事でOKとのことだったので、訪問することになった。尚、余談だが、中国では『実際に見てみる、やってみる』ということはとても大事なことである。例えば電化製品などは買ったその場で試運転を実際にやってみたのちに持ち帰りになる。また今はインターネットショッピングがかなり普及されているが、画面で見たものと実際見たものが大きく乖離することも多々あるようである（ただ後述の件は中国に限ったことではないが・・・）。とにかく実際見てみることは大事なことなのである。

というわけで仙台と同じ緯度の大連ですら30℃を超える炎天下の中、長興島の視察に行くことになった。駐在日本人の中ではゴルフと言えば長興島、というくらい日本人には馴染みのあるところである。ただゴルフをしない人間にとってはただの遠い所、というイメージしかない。高速道路を利用して1時間半をかけて目的地に到着した。

まず簡単に長興島管理委員会（園区の管理をしている部署）にて当園区の概要についてレクチャーいただいた。当園区は2005年8月に遼寧省が主導する「五点一線計画」の一拠点として位置づけられ、2006年より本格的に開発が進められた。そして2010年には中国政府から国家級経済技術開発区に昇格した。尚、開発のきっかけは現副総理である李克強氏（当時遼寧省書記）の発案であり、その点でも一目置かれているのが窺える。

重点項目は造船、石油化学、装備産業などで、現在も既に世界有数の造船会社である韓国のSTXが進出、稼働している。また造船項目については中国最大の造船会社である大連造船集団までもが進出、稼働しており、造船部門については充実しているのが窺える。日本企業も、造船部門での進出は現状ないものの、伊藤忠商事や太陽日酸株式会社等大小15社が進出している。

当園区の強みとして再三強調されていたのは物流面での利点である。まず海洋については海岸線に面した部分が189.3kmと広く、かつ深さも海岸線から約400mで水深20m、1kmでは水深30mにも達する。そしてなにより長興島は不凍港であり、一年中利用することができる。陸路についても高速道路、高速鉄道に隣接し物流面のインフラは整

備済み、位置関係としても大連市内まで 83 km、瀋陽まで 292 kmの立地に当たり、当園区付近の別の園区と比較すると立地条件は良好である。

簡単な机上の説明を受けた後、実際に園区を回りながら説明していただいた。先述したように中国は実際見てみないことにはわからない。まずは日本企業を誘致する場所を見せていただいた。



左の写真が予定地とのこと。一見して分かるようにただの荒地にしか見えないが、担当者の話によると、3か月から5か月で完全なる平地となるとのことだった。確かに中国は工事が早い（質の如何は別の話）ので、可能かもしれないが、俄かには信じがたい話だった。因みに、総面積 40 万㎡で、うち 5 万㎡に一棟 2000 ㎡のレンタル工場群を作成、残り 35 万㎡は個別に切り売りするような形で運営を考えているそうである。

こことは別にもう一か所長興島内の保税区域内にも日本企業誘致専用場所を作る予定とのことであるが、そちらについても先の写真と同様の有様であった。敢えて写真は乗せないようにすることにする。

その後も島内を案内していただいた。STX の工場は規模が桁違いだった。その隣には韓国最大の製鉄会社である POSCO があった。おそらく POSCO の製鉄を STX が利用して仕事をしているのだろう。STX の関連会社は 14 社が長興島に進出しているそうで、やはり牽引する企業があるとサプライヤーの進出も促せるため、主幹会社の存在は欠かせないものと言えるだろう。

余談だが、今回大連に日産が保税區に進出することが決定した。この件については色々な園区が興味を持って見ている。勿論長興島管理委員会も例外ではない。STX のように日産が主幹会社として機能することを期待しているようである。



韓国最大の造船会社である STX（写真左）と中国最大の造船会社である大連造船集団（写真右）

他にも石油化学工業園区や港湾などの島の主要箇所をみせていただいた。率直にいうと、まだまだ場所的余裕がある、といったところかと思う。STX のように完全に整備された地域もあれば、日本工業園区のように未だ整備されていない土地もある。むしろそちらの方が多いのではないのだろうか。

この点は良い意味で捉えるとまだまだ発展の余地がある、とも取れる。ただ個人的見解では現状を見せられたところでは、中国に「初めて」進出することを考えている企業の食指が動くとは思えない。

金銭的に余裕のある大企業ならともかく、中小企業にとって外国に進出するというのとは一大決心であると思う。既

に中国国内に顧客をもっていたり、先述したサプライヤーのような企業であればともかく、そうでない場合は尚更のことで、リスクを抑えたい、というのは当然のことである。中国の園区にはレンタル工場が整備されているところが多い。ある園区で提案を受けた際、まずは5年程度レンタルショップで稼働、その後軌道に乗ったら自社工場を検討してはどうか、という話であった。自前の工場建設は時間的、金銭的余裕が必要であるが、レンタル工場はその2点のコストダウンを図ることができる最良の手段の一つであると思う。その有無は大きいのではないだろうか。

また、外国企業にとって、進出したのちの大変なことは「品質の管理」だと言われる。そのために駐在者を置いたり、長期出張者による管理をさせるのがよくある話である。大連は日本人に住みやすい街だと言われている。勿論上海といった大都市よりは相対的に負けるが、都市の規模と比べると日本企業の定着率は高い。その理由としては大連が「日本人にやさしい街」であることは一つの要因ではないか、と考えている。

現在長興島に常時いる日本人は10人に満たないそうだ。考えてみると長興島には日本人を受け入れる体制が出来ていない。説明では、日本料理店とマクドナルドがもうすぐできるとのことだった。衣・食・住の3つの確保は駐在員にとっての必須条件であると考えている筆者にとっては、住みにくい環境に感じてしまう。

ネガティブな面を色々書いたが、まだまだ発展途上の地域であり、大化けする可能性は秘めているのは確かであると思う。ただこれは他の園区にも言えることで、中国の潜在能力の高さを表しているのではないだろうか。

「世界の工場」から「世界の市場」へと変化している中国。確かに数値的には一時期ほどの勢いはないものの、市場の魅力としては十分である。ただ机上の理論では説明できないのは確かで、まずは見てみる、体験してみる、というのが鉄則、見ずに判断するのは不可能に近いのではないだろうか。

宣伝となるが、そのフォローをするのが当事務所の仕事であり、責務であると考えている。ご興味のある方々は遠慮なく声をかけていただければ、と思う所存である。